



日本の昔話

イラスト 若林 夏

むかしむかし、あるおてらにふるどうぐあつめが
だいすききな、おしょうさまがいました。

あるときおしょうさまは、

それはそれはりっぱなちやがまを、手に入れました。

この日もちやがまを出してきて、

しげしげとながめながら

おしょうさま「ああ見れば見るほど

いいちやがまじゃわい」

おしょうさま「このちやがまでゆをわかつて、

おちやをたてれば

みんなびっくりするじやろうて……」

と、かんがえているうちに

おしょうさまは、コックリコックリ

いねむりはじめました。



すると、どうしたことでしょう。

ちやがまがカタコトうき出しました。

けれどもおしょうさまは、

いねむりをしてきづきません。

そのうちヒョッコリあたまがでてきました。

つづいて手足やしっぽがニヨキニヨキはえ、

ノソノソあるきだしたのです。

カタン、ゴソゴソゴソ

ものおとをききつけたこそうさんが、

おしょうさまのへやをそうっとのぞいてみました。

こぼうず 「うっうわく！たいへんだ！

ちやがまがばけた。おしょうさまおしょうさま。

たいへんでございます！」



おしょうさま「なんじゃ、なんじゃ、やかましいのう」

いぼづ「ちゃ、ちゃ、ちやがまに足がはえてあります」

おしょうさま「なに？ちやがまに足がはえた……。そんなバカな」

おしょうさまがへやを見まわすと、ちやがまはもとのところへ、

ちよこんとおいてあります。

おしょうさま「なにをいっておる。ちやがまはちゃんと

そこにあるじゃないか」

いぼづ「あれあれ？こいつはへんだぞ。

いままでたしかにあるいていたのに」

おしょうさま「いいかげんなことをいいおって、

せつかくいいきもちでねていたのに、おきてしまったではないか。

あっちへいきなさい！」

いぼづは、しびしびへやへもどっていききました。

いぼづ「おっかし〜な〜」



そのばん、おしょうさまはひとりでおちやをたてようと、
水を入れたちやがまを、火にかけました。

しばらくしておゆがわくと・・・。

ちやがまはきゆうに、おとをたてはじめました。

ちやがま

♪ブンブクブクブクブクブク

アチアチアチアチアッチー

ブンブクブクブクブクブク

アチアチアチアチアッチー♪

アチアチアチアチアッチー。

おしょうさま「たったいへんじゃ！ちやがまがばけた。

だれか！だれかつかまえてくれ！」

こぼうず「おしょうさま！」



こぞうさんはすぐにかけつけ、ちやがまをつかまえました。

でも、そのときはもう手も足もしっぽもなく、もとのちやがまのままでした。

おしょうさま「こいつはとんだものをかいこんだ。こんなあやしいちやがま、もっていてもしかたがない。うってしまおう」

あくる日、おしょうさまはなじみのふるどうぐやさんをよびました。

ふるどうぐや「ほー、おしょうさま。

こいつはりっぱなちやがまじゃございませんか。どうしてうっちまうんです？」

おしょうさま「いやあ、ほかにもっとよいのがあったから、

これはいらなくなったんじゃ」

ふるどうぐやさんはよろんで、ちやがまをかいとり、

いえにもってかえました。

そのよる、ふるどうぐやさんがねていると、まくらもとでこえがします。

ちやがま「ふるどうぐやさん・・・」

ふるどうぐやさん・・・」

ふるどうぐや「お、お、おまえはさっきのちやがま！」

ちやがま「へへへ、おどろいちゃました？」

ふるどうぐや「おどろくにきまつてるじゃねえか。」

てつでできたちやがまとばかり

おもってたのに、いま見りゃ、

あたまが出るわ、しっぽは出るわ、

けむくじやらの足はやして、

こえをかけられた日にゃ、

だれだつてきもをつぶすわい。

いったいおまえはなにものだ？」



ちやがま「あっしは、ぶんぶくちやがまともうします。

ためきがばけたちやがまです。

おやじさん、どうかあっしをここにおいでくださいな。

きつと、ほんとのちやがまよりおやくにたちます」

ふるどうぐや「うーん。まあ、おいてやってもいいが・・・」

ちやがま「あっしだって、ただでおいてもらおうとは

おもってやしません。おれいにげいをいたしましょう。

たかくいところに、ピーンとはったつなをひよいひよいと、

とびながらつなわたりをいたしましょう」

ふるどうぐや「ほー、そいつはおもしろい。よし、そうときまれば

ふるどうぐやのしょうばいはやめだ！」

ちやがま「それはようございます！」

ではさっそく、おきやくが入るこやを、つくってくださいな」

ふるどうぐやさんは、あくる日からこやをこしらえ、
しゃみせんやたいこのおはやしをやとい、
おもてには大きなかんばんをあげました。

ふるどうぐや「さあよってらっしゃい、
見てらっしゃい。よにもふしぎなちやがまのげいでござい。
ナントうごくちやがまがつなわたりのげいを

ひろういたします。どなたさまも、とくところうじろ！
さあさ、おだいは見てのおかえりだよ。

ぶんぶくちやがまのつなわたり」

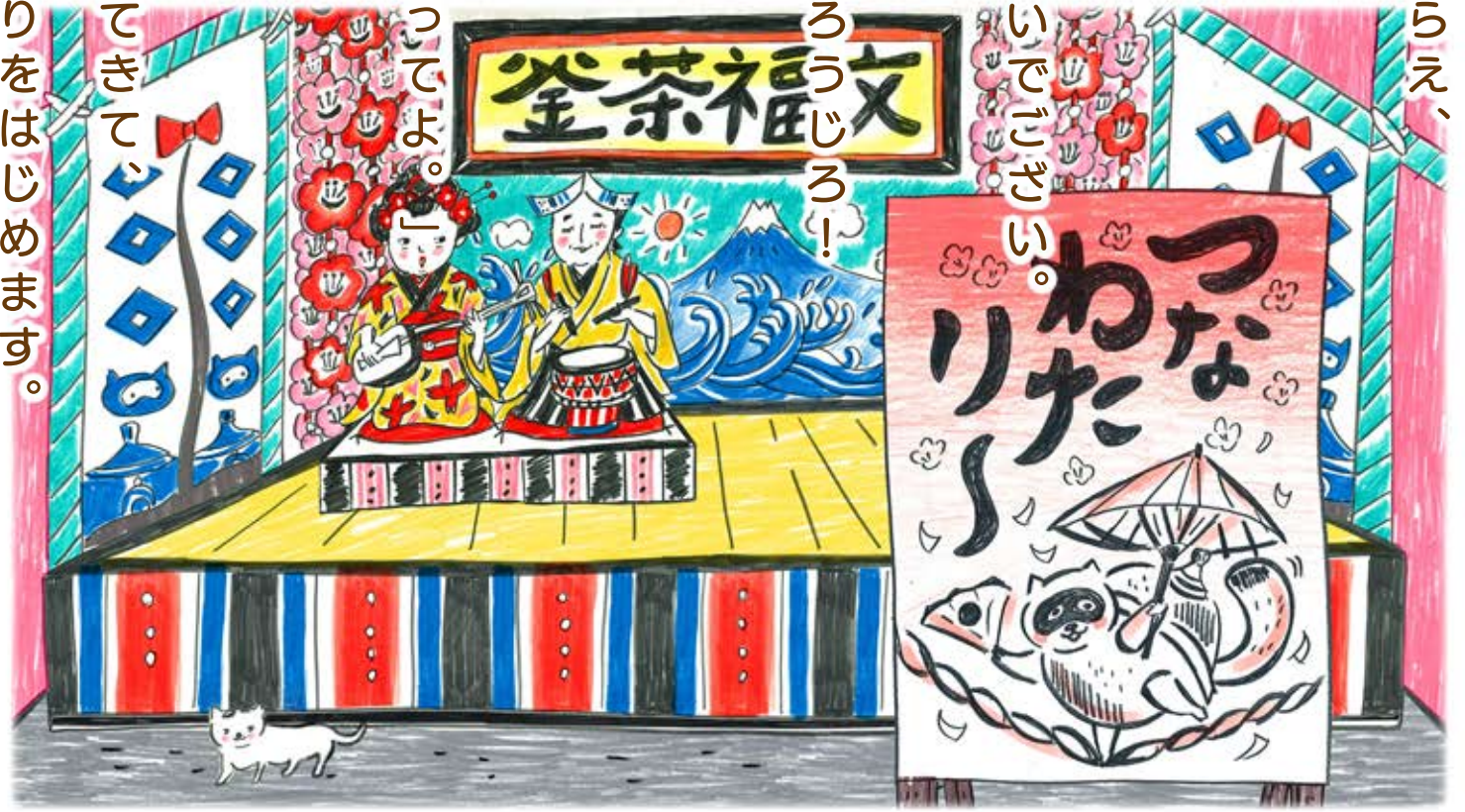
けんぶつきやく「へくちやがまのつなわたりだつてよ。

「ちよいとのぞいてみようかね？」

「いこ、いこ！」「おいらも見る」

するとぶんぶくは、がくやからヒョコヒョコでてきて、

けんぶつきやくにおじぎをし、すぐにつなわたりをはじめます。



ちやがま♪アラヨッコラサアラサッサ!

チヨイチヨイチヨイナチヨイサッサ

ぶんぶくちやがまのつなわたり♪

ちやがまに手足がはえたためきがつなわたりをするとあって

けんぶつきゃくは大よろこび。

けんぶつきゃく「おもしろいわ」

「こいつはゆかいだ!」「ちやがまいいぞ!」

ちやがま♪アラヨッコラサアラサッサ!

ホレホレホイナホイサッサ

ぶんぶくちやがまのつなわたり♪

けんぶつきゃく「なんてこったあ、ためきがつなわたってるよ」

「こいつはゆかいだ」「ぶんぶく!いいぞ!」

「がんばれ!」「いいわよ!」「もつとやれ!」

たちまちひょうばんになり、こやはまいにちわれんばかりの大入りです。
ひと月もたたないうちに、ふるどうぐやさんは、大がねもちになりました。



そんなある日のこと、

ふるどうぐやさんはまいにち

いっしょうけんめいげいをする、

ぶんぶくにいいました。

ふるどうぐや「ぶんぶく、おまえのおかげで、

大もうけさせてもらった。

ありがとうよ。じゃが、まいにちげいをして、

さぞかしくたびれたろう。もうおわりにしよう」

ちやがま「そうですか。

おやじさんがそうおっしやるのなら、

そういたしましょう」



ふるどうぐやさんは、小やをしめることにしました。

そして、ちやがまをもっておてらへいき、

おしょうさまにいいました。

ふるどうぐや「こんなに大もうけできたのも、

すべておしょうさまから

このちやがまをゆずっていただいたおかげです。

ありがとうございます」

ふるどうぐやさんは、

もうけたお金のはんぶんをつけて、

ちやがまをおてらへおさめました。





そして、

たぬきはぶんぶくちやがまとあがめられ、

おてらのたからものとしていまも

まつられているそうなの。

めでたしめでたし。

お
わ
り